宗教新聞
発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2019

購読料（税込）
1部　500円
半年　3,000円（〒共）
年間　6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

宗教サミット32周年「世界平和祈りの集い」

令和の時代に恒久平和実現を

比叡山延暦寺

宗教、宗派を超えて諸宗教の代表が集まり、平和を祈り合う「世界平和祈りの集い」が8月4日、滋賀県大津市の比叡山延暦寺で行われた。1987年に当地で開催された「比叡山宗教サミット」の精神を受け継ぐため天台宗国際平和宗教協力協会が毎年開催し、今年で32回目。炎天下、内外の諸宗教代表や市民、青少年ら約900人が、延暦寺根本中堂近くの比叡山延暦寺一隅を照らす会館前「祈りの広場」で平和の祈りを捧げ、誓いのメッセージを語った。

「平和の祈り」を捧げる諸宗教の代表ら＝８月４日、比叡山

舞台中央の地球に見立てた透明の球体に、「天台青少年比叡山の集い」に参加している全国の青少年が、青と白と緑の折り鶴を球体に奉納。青は海と空を、白は雲を、緑は大地を表している。折り鶴は、研修生をはじめ延暦寺学園、比叡山幼稚園、比叡山への参拝者やサミット参加者らが世界平和や被災地の復興を願い折ったもの。

杜多道雄天台宗務総長は会式の辞で、「平和が願われながら、世界各地で戦争やテロ、大規模な人権侵害が絶えず、自国第一主義が世界を揺るがし、ヨーロッパ、中東、東アジアで緊張が高まっている。このような時こそ、宗教者は対話による相互理解を深め、多様な価値観を認め、共に祈り、世界平和を希求し続けなければならない。宗教者は弱者の側に立ち続けることを誓った32年前のサミットを思い起こし、よりよく生きられる時代を共同して作りたい」と述べた。

初回のサミットで採択された比叡山メッセージが朗読され、森川宏映天台座主が登壇、「宇宙にあまねく慈悲をめぐらせる諸仏善神に心からの祈り」を捧げ、「イタリア・アッシジでの世界平和の祈りの精神を継承し、『アッシジから比叡山へ』の名のもとに比叡山宗教サミットが開催されて32年を迎えた。この間、私たちは相互理解を深め、ともに世界平和を願い、祈りを捧げてきたが、武力の威嚇や行使は後を絶たない。争いによる犠牲者の苦しみと悲しみに心を寄せ、暴力と憎悪の連鎖を断ち切り、協調の力で慈悲の心を育てねばならない。宗教者は平和への取り組みに一層努力し、使命を全うすることをお誓いする」とお言葉を述べた。

次いで、諸宗教の代表者が登壇し、比叡山宗教サミットを記念して鳴らされる「平和の鐘」に合わせ参加者全員で平和を祈った。登壇したのは、教派神道連合会から出口紅大本教主、全日本仏教会から田中昭徳副会長・聖観音宗管長、日本キリスト教連合会から大塚喜直カトリック京都教区司教、神社本庁から吉川通泰副総長・福山八幡宮宮司、新日本宗教団体連合会から理事の田澤清喜松緑神道大和山教主、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会から宝積玄承参与・曹洞宗長楽寺御尊住、世界連邦日本宗教委員会から顧問の野下千年カトリック長崎大司教区諸宗教委員会委員、日本ムスリム協会から徳増公明会長、諸宗教代表の梅谷大二天理教教会本部統領代理、そしてヴェチェスラヴ・トゥミル・ローマ教皇庁駐日特命全権大使代理と森川座主。

続いて、教皇庁諸宗教対話評議会のミゲル・アンヘル・アユソ・ギクソット議長と世界仏教徒連盟のパン・ワナメティー会長の平和のメッセージが、それぞれ代読された。

次に、全日本仏教会関係の高校1年生、和田真琴さんと、天台青少年代表の中学3年生、貴船新太くんが子供を代表して平和へのメッセージを発表。それを受けて、宗教者を代表し、教派神道連合会の宍野史生扶桑教管長が「私たちはこれまで宇宙船地球号の資源を浪費してきたことを反省し、若い世代に操縦桿を渡したい」などと語った。

続いて、天台青少年の代表が登壇し、「世界の人びとと仲良く暮らそう」「尊い生命を大切にしよう」「自然の恵みに感謝しよう」と「平和の合い言葉」を参加者と一緒に唱えた。

最後に、小堀光實延暦寺執行が閉式の辞で閉幕した。

森川宏映天台座主

灯

「イエスは、ペトロ、ヨハネ、およびヤコブを連れて、祈るために山に登られた。祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。見ると、二人の人がイエスと語り合っていた。モーセとエリヤである。二人は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた。ペトロと仲間は、ひどく眠かったが、じっとこらえていると、栄光に輝くイエスと、そばに立っている二人の人が見えた。：雲が現れて彼らを覆った。彼らが雲の中に包まれていくので、弟子たちは恐れた。すると、『これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け』と言う声が雲の中から聞こえた。」（ルカ福音書9：28―35）

イエスが何者であるか、誰にもそれが見えなかった。一瞬かいま見せた栄光の姿もすぐに隠されていく。弟子たちは裏切り、彼らが本当に悟るのは十字架の死の後だ。8月6日、伝統的なキリスト教会は「主の変容」の出来事を思い起こす。原爆の日、広島の街も美しい姿に変容を遂げた。（1）

天地

4日夜は岡崎近くのゲストハウスに泊まる。二段ベッドの上のフランス人の若者に、京都は暑いだろうと言うと、気にならないとの返事。1カ月のバカンスで来日5日目という、彼らの暮らし方に感心する▼オーナーが経営している浄土寺の銭湯に案内され、京都の学生時代を思い出す。ジェット噴流に身を任せると、富士登山の疲れもとれたようで同夜は爆睡▼翌朝4時半に宿を出て、徒歩で清水寺へ約30分。青蓮院門跡のケヤキの巨木が剪定されて涼しそう。知恩院から高台寺前の「ねねの道」を歩くと、石畳を老夫婦が散歩していた▼円山公園に着くと、東山の端が明るくなりかけ、まるで枕草子の「春はあけぼのやうやう白く～」。ここで猫と遊ぶ。石のテーブルに置かれていた猫のエサで誘うと、黒猫が2匹、のどを鳴らして近づいてきた▼二年坂から三年坂を登ると清水道。うらぼん法話に集まる人はたいてい車かタクシー。自転車をこぐ老人を見たのは初めてで、珍しく歩いていた老婦人に挨拶する▼会場に着くと椅子は既に満席。京都の夏は学びの夏でもあり、各社寺ではいろいろな催しを用意している▼法話が終わると帰りにパン2個と牛乳を頂け、拝観料はいらないので、袋を手に境内を散策。もみじの緑に目を癒やしながら、ベンチであんパンを食べる▼清水寺は国宝の本堂が平成の大修理の最終段階で、檜皮葺の屋根を葺き替えていた。音羽の滝を過ぎ、舞台を支える柱を見上げ、アテルイ・モレの碑へ。坂上田村麻呂に滅ぼされた蝦夷の英雄と母の悲しい歴史を思う。

社説

追悼・勝田吉太郎京大名誉教授

神なき民主主義と新世紀の日本

京大名誉教授の勝田吉太郎先生が7月に亡くなられた。「偲ぶ会」が9月1日に、珍しく京大学内で行われる。先生の主要著作は関西の代表的な学術出版社であるミネルヴァ書房から1992年に計8巻にまとめられて出版され、各巻末に収録された著作などの「解説」がある。興味深いのは川端香男里東大名誉教授をはじめ西部邁、碧海純一、五木寛之など東京系の解説者がそれを担当していることである。むろん直弟子である木村雅昭京大教授も入っているが、私のような外者が第7巻の「解説」を担当したことについては、いささか説明を加えておきたい。

戦後日本の弛緩を批判

私は京大法学部の学生を6年も務めた。法学部の講義には殆ど出席せず真面目学生のノートを借りて、試験直前に何とか合格できるだけの勉強しかしなかった落第生である。ある時旧三高・一高のスポーツ交流の伝統を引き継いで毎年開催されていた京大・東大の野球交流戦を見て、応援団が東大にはあるのに京大にはないことを嘆いた熱血児がいた。私はアルバイトもあれこれしていた貧乏学生であったが、彼に三顧の礼を尽くされて京大応援団創設に参加し、活動に必要な資金作りにエネルギーを費やした。

卒業後は三井物産に入ったが、仕事相手の八幡製鉄の連中に元「官営国策会社」の役人気質が抜けない者が多く、見切りをつけて退社し京都に舞い戻ってきた。その時、たまたま縁のあった台湾の京大大学院留学生から、勝田教授の演習が面白いという話を聞いて、聴講生として大学院のゼミに加わった。

浪人生活3年目に、学部時代の恩師大石義雄先生から、京都市内に近く新大学を作るので、法学部で労働法の教員にならないかという有り難いお話があったが、お断りした。私は大学の先生になりたいと思ったことは全くない。横文字を縦にして解説したり、ミミズのはうような古文書を読んだりして何が面白いかという勝手な偏見を、貧乏と思ったことのない大学教員になったのだ。

その後大阪府立大学、愛媛大学に転勤するときも、先生の推薦を頂いた。先生は数十人の大学院指導生を各地の大学教員に推薦しておられる。大学教員は研究教育が本職で、学生の就職まで面倒を見る義務はない。ところが、私のような学業成績不良の変わり者の面倒まで見て頂いたのである。

私は愛媛大学に移ってから、ひ弱になりつつある学生を心身共に鍛錬するために、毎年冬休みにインドに連れて行った。先生にその土産話をすると、大変に興味を持って熱心にあれこれ質問されたものである。中国・韓国旅行についても同様であった。時事問題を扱う出版社や雑誌社は東京に集中しているので、関西などの大学教授が時事問題に関心を深めても発表の場は少ない。しかし著作集第8巻巻末の著作一覧に示されているように、大著『近代ロシア政治思想史』の刊行以来、深い思想的分析を根底にして時代の趨勢に対峙された先生は、ドストエフスキーが提起した「神なき人間中心主義が直面するニヒリズム」という近代社会の深刻な問題提起に深い共感を覚えられた。

戦後日本が直面した諸問題にいかに向かい合うべきかについて、哲学的な考察に立脚した指導者が暁天の星のごとく稀であることを知り、「豊満ゆえの精神の弛緩」がじわじわと浸透しつつあった戦後日本の根本問題に対して、1970年代以降に大胆な問題提起や批判を開始されたのだ。本稿の表題「神なき民主主義」もその中心課題の一つなのである。

学ぶべき示唆と教訓

意識の高い読者に注目して、多くの一般読者向きの単行本も刊行された。卓越した保守政治家の一人に数えられる中曽根康弘元首相なども、世間には殆ど知られていないがわざわざ親書を寄せただけでなく、直接会って色々教えを請うている。

敗戦後約7年もの間米国の占領下に置かれて以来の日本は、今や新世紀の大きな政治的変動期に直面しつつある。戦争の勝者から頂戴した（押しつけられた）われらの「敗戦民主主義憲法」も、抜本的な再検討の時期に入っていることは明白だ。その問題提起の先駆者であった勝田教授の著述からわれらが学ぶべき示唆と教訓は、未だに色褪せてはいないのである。（大阪国際大学名誉教授・京都大学法学博士・岡本幸治）

靖國神社で第73回みたままつり

創立150年のあゆみ展示

靖國神社（山口建史宮司、東京・九段）の光の祭典、第73回「みたままつり」が7月13日から16日までの4日間開催された。みたままつりは、境内に数多くの献灯を掲げ、戦没者のみたまを慰める夏祭り。昭和21年のお盆に長野県遺族会が境内で盆踊り大会を開催したのがきっかけで、翌22年から始まった。

外苑参道の両側には約1万の大型献灯が並ぶ。夕刻になると一斉に灯が灯り、東京都心の夜空を黄金色に染めた。遺族、戦友、崇敬者、宗教団体などから奉納された献灯の一つひとつに奉納者の名前が墨書されている。内苑には全国から奉納された約2万の小型献灯が掲げられ、境内は幻想的な雰囲気に包まれている。終戦70年を迎えた平成27年から3年間は種々のトラブルを避けるため、外苑参道の露店の出店が見合わされてきた。昨年からは、創立150年記念事業の外苑整備工事などの見通しが立ったため、外苑の大村益次郎銅像周辺に出店が再開された。

前夜祭は13日の夕暮れ、大村像の下で千代田区民踊連盟の盆踊りが始まる。その周辺には、子ども連れの家族、浴衣姿の若者たちが露店に列をなして夏祭りを堪能する景色が見られた。一方、神門内の境内は鎮魂の祭りにふさわしい神聖さが保たれ、恭しく本殿に参拝し英霊に感謝を捧げる人の波はこの期間途切れることはなかった。

同日、午後6時40分、白いユニフォームの千修吹奏楽団がパレードを開始。ドラムのリズムと管楽器の音色を響かせて外苑参道を進む。拝殿前に整列し荘厳に「海ゆかば」の演奏を奉納した。続いて拝殿横で崇教真光青年隊が五色太鼓を奉納。夕闇が拝殿を包む中、勇壮な鼓動が響き渡った。

午後7時からは、能楽堂で「靖国150年～祀られし神々に捧ぐる歌」と題して一般社団法人日本歌手協会有志による奉納歌謡ショーが開催された。ボニージャックスの「宮さん宮さん」に始まり、田辺康雄、九重祐三子、こまどり姉妹、大津美子、あべ静江、三沢あけみら豪華な顔ぶれがそろった。合田道人の司会で、英霊たちへの感謝から終戦の巷に流れた思い出の歌謡、令和に寄せてそれぞれの思いを込めたヒット歌謡までを歌い継ぎ、グランドフィナーレは参加者全員による「東京行進曲」で締めくくった。

同時間帯に、第一鳥居から拝殿前まで芝濱睦会のみこし振りの奉納が行われた。

期間中は連日、午前9時から午後8時半まで、能楽堂や参道で、日本舞踊、浪曲、民謡、語り部、雅楽、琉球舞踊、浪曲、古武道、モダンダンス等各種の芸能が次々に奉納された。

14日、第二夜祭の夜は、「つのだ☆ひろ野外特別コンサート」が行われた。

遊就館では「靖國神社御創立百五十年特別展後編―御創建から現在―」が開催中。明治2年の神社創建から今日に至る靖國神社150年のあゆみを展示。

境内には、各界著名人による約300点の懸ぼんぼりと、有名俳人の献句、全国からの2000の献句から選ばれた預選句150の献句ぼんぼりが掲げられた。神門には、宮城縣護國神社奉納の仙台七夕が彩を添え、遊就館本館玄関には青森ねぶた飾り、弘前ねぷた飾り、湯沢絵灯籠、宮島管絃船など全国より奉納された有名燈籠が展示された。

献灯が並ぶ参道を進むみこし振り＝7月13日、靖国神社

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間　■氏名　■郵便番号　■住所
■連絡先電話番号　■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒160-0021 東京都新宿区新宿5-13-2-4F
電話 03(3353)2940
FAX03(5363)5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠 著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ 日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機……。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋靈 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分、〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土恵想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン やさしい和訳
監訳著・水谷 周 訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補、大改訂 定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421